

『JVA2021 年年間統計調査結果』について

当協会の業務部会マーケット調査委員会は、2021年1月～12月のビデオソフトの出荷についての統計調査を『データ版 日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.93』にまとめました。つきましては、ここに結果の抜粋となりますが2021年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、本報告書は一般の方にも有料にて頒布しております。尚、例年、冊子でのご提供しておりましたが、ペーパーレス化に伴い、今年度よりデータでのご提供になります。

本件のお問い合わせにつきましては、広報課(03-3542-4433)まで、または、協会ホームページの「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以 上

2021年（1月～12月）の実績について

はじめに

2021年も、2020年から引き続きコロナ禍の影響を受けた年となった。しかしながら、そのような状況中、2021年上半期には、『劇場版『鬼滅の刃』無限列車編』がリリースされ大ヒットとなったほか、下半期はコロナ禍の影響を最も大きく受けた2020年の同期に比べて102.6%の伸長を示し、いわゆる「コロナショック」からの回復を示す傾向が見られた。特に、年間の販売用市場は、実に8年ぶりに上昇に転じる結果となった。コロナ禍においても、映像エンタテインメントに対する人々の変わらぬ期待と、それに応えようとする提供側の努力が、ビデオソフト売上の実績にも表われた と言えよう。

コロナ禍における映像配信市場の躍進という市場構造の激変に加え、次なるコロナ罹患の波など、先行きの不透明感は否めないものの、ビデオソフト市場のポテンシャルを感じさせる年となった。

1. 2021年のビデオソフトの総売上は1,369億2,600万円で前年比99.8%とほぼ前年並みの実績となった。上半期は695億2,700万円で前年同期比97.3%と前年同期を割り込んだが、下半期が673億9,900万円と前期よりも低い実績ながら、前年同期比では102.6%と伸長したことから、前年とほぼ同じ水準の実績となった。

ビデオソフトの総売上金額をメディア別に見てみると、DVDビデオが559億9,300万円で前年比84.8%と約1.5割の減少となったのに対し、ブルーレイ（Ultra HD ブルーレイを含む。以下同様）は809億3,300万円で前年比113.9%と大きく増加する結果となった。構成比ではDVDビデオの構成比が40.9%（2020年は48.2%）、ブルーレイの構成比が59.1%（2020年は51.8%）となり、ブルーレイの構成比が6割近くを占めることとなった。

<添付資料 表1>

2. ビデオソフト全体の売上金額を流通チャネル別の構成で見ると、販売用、特殊ルート、レンタル店用、業務用の割合は、89.1対0.4対10.0対0.5となり、販売用の割合が増加し(2020年は83.3%)市場の9割近くを占めた。

<添付資料 表4>

3. 販売用全体 (DVDビデオとブルーレイの合計) の売上金額は1,220億3,700万円で、前年比106.9%と前年を上回った。販売用全体売上金額が前年を上回ったのは、2013年以来、8年ぶりとなる。そのうちブルーレイは795億1,300万円で前年比115.7%と二桁の伸長となったが、DVDビデオは425億2,400万円で前年比93.4%となった。販売用全体に占めるブルーレイの売上金額の構成比は65.2%となり、前年に続き6割を超えることとなった。

販売用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、『日本のアニメーション (一般向け)』(構成比2位 33.9%)は、『劇場版『鬼滅の刃』無限列車編』の記録的な大ヒットなどの影響で前年比161.0%と売上を大きく伸ばした。また、構成比5位 (5.2%)の『邦画 (TVドラマを除く)』も前年比116.2%と伸長した。

一方、構成比1位 (35.8%)の『音楽 (邦楽)』は前年比95.7%、構成比4位 (5.6%)の『洋画 (TVドラマを除く)』も同76.3%となった。また、昨年、コロナ禍において旧作のビットが目立っていた『日本のTVドラマ』は前年比92.8%と前年を下回ったものの、販売用全体の中で構成比3位 (6.9%)を維持している。

各ジャンルの売上金額におけるブルーレイの割合は、『日本のアニメーション (一般向け)』が81.2%(前年79.5%)、『洋画 (TVドラマを除く)』が76.9%(同76.9%)、『邦画 (TVドラマを除く)』が58.7%(同52.5%)、『音楽 (邦楽)』が56.0%(同56.2%)、『日本のTVドラマ』が54.0%(同46.4%)となっている。

<添付資料 表5>

4. ブルーレイの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、『日本のアニメーション (一般向け)』(構成比1位 42.2%)が、『劇場版『鬼滅の刃』無限列車編』の記録的な大ヒットの影響で前年比164.4%と大きく伸長、構成比4位 (5.7%)の『日本のTVドラマ』も同108.1%、構成比5位 (4.7%)の『邦画 (TVドラマを除く)』も同129.9%となり、全体の売上の前年比115.7%の伸長に大きく貢献した。一方で、構成比2位 (30.8%)の『音楽 (邦楽)』は前年比95.4%にとどまり、3位 (6.6%)の『洋画 (TVドラマを除く)』も前年比76.3%と前年を下回った。

<添付資料 表7>

5. DVDビデオの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比2位 (18.3%)の『日本のアニメーション』が前年比147.7%と大きく伸長、さらに構成比4位 (6.2%)の『邦画 (TVドラマを除く)』が同101.0%と前年を上回ったが、構成比1位 (45.2%)の『音楽 (邦楽)』が前年比96.0%、3位 (9.1%)の『日本のTVドラマ』は同79.6%、5位 (5.4%)の『芸能・趣味・教養』も同60.6%と前年を下回った。

<添付資料 表7>

6. レンタル店用全体 (DVDビデオとブルーレイの合計) の売上金額は136億6,700万円で、前年比62.5%と前年を大きく下回った。売上金額全体に占めるブルーレイの割合が5.8%となり、前年

の9.2%から減少した。全体の94.2%を占めるDVDビデオの売上金額は128億6,800万円で前年比は64.8%となった。一方のブルーレイのレンタル店用の売上金額は7億9,900万円で前年比39.6%と大きく減少した。

レンタル店用全体の売上がジャンル別にみると、すべてのジャンルで前年を下回り、構成比1位(21.2%)の『日本のアニメーション(一般向け)』が前年比65.8%、構成比2位(19.0%)の『邦画(TVドラマを除く)』が同70.1%、3位(18.8%)の『アジアのTVドラマ』も同70.8%、4位(12.1%)の『洋画(TVドラマを除く)』も同41.2%となっている。

<添付資料 表5>

レンタル店用全体の売上がジャンル別にみると、すべてのジャンルで前年を下回り、構成比1位(21.2%)の『日本のアニメーション(一般向け)』が前年リリースの『鬼滅の刃』の反動により前年比65.8%、構成比2位(19.0%)の『邦画(TVドラマを除く)』が同70.1%、3位(18.8%)の『アジアのTVドラマ』は70.8%となっている。

売上金額におけるブルーレイの割合が最も高いのは『邦画(TVドラマを除く)』で、売上金額の49.9%を占めた。

<添付資料 表8>

7. 売上金額を売上数量で割って単純に求めた1枚当たりの単価を見てみると、DVDビデオの販売用の平均単価が3,801円で前年比99.7%、ブルーレイの販売用は5,731円で同99.2%となった。

DVDビデオの『レンタル店用』の平均単価は1,483円となり前年比95.2%と低下、『邦画(TVドラマを除く)』や『洋画(TVドラマを除く)』、『日本のTVドラマ』の単価低下が影響したとみられる。ブルーレイの『レンタル店用』の平均単価も1,427円で前年比64.1%と低下、こちらも主要なジャンルにおいて単価の低下がみられた。

<添付資料 表6>

以上

追記

<本統計調査報告についての注意点>

- 本報告は、JVA 会員社が発売、販売する自社作品および他社作品の出荷段階の売上をまとめた統計である。
- 返品分は金額、数量とも調査時点において差し引いている。
- DVD とブルーレイのコンボ作品はブルーレイにカウントしている。
- 「日本の子供向け(アニメーション)」などにある“子供向け”とは、目安として9歳以下の子供を対象とした作品のこと。
- ブルーレイの売上にはUltra HD ブルーレイの売上を含む。
- 「特殊ルート」とは、雑誌やコミック、食玩などとして他商品に付帯されるものの売上のこと。